

令和5年4月 市長定例記者会見

令和5年4月3日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和5年4月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

会見の進行につきましては、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。事業発表に係る質疑応答の後に、フリーの質疑応答とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、質問の際は、挙手の上、所属名をお願いいたします。発言の際はマイクのスイッチをお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力をお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願い致します。

【市長】 4月の定例記者会見です。よろしくお願い致します。

花換まつりでは、たくさんの方に来ていただきまして、非常ににぎやかな賑わいを見せています。今日から令和5年度が始まり、市役所では68名の新規採用者が入庁するなど、一同フレッシュな気持ちで新たな年度に取り組みたいと思っております。

いよいよ今年度末には北陸新幹線開業ですので、それに対して準備を進めていかなくてはならないと思っております。

次に、予算の関係ですが、敦賀港の岸壁延伸を事業化していただきました。185億円ということで、5年間で220mの延伸をしていただけるということで、非常にありがたいと思っております。令和5年度に今やっています事業が終わりますので、終わった後ではなく完成年度に事業化するのは非常に珍しいということを聞いております。国会議員の高木先生をはじめ、たくさんの方にお世話になって、ありがたいと思っております。

それから、笙の川の事業も、これは大規模特定河川事業に入れていただきまして1億3000万円の予算がつきました。これにつきましては、普通の河川の予算は福井県に国から一括で来ましてそこから分配する形になるんですけども、別枠で予算を取っていただきますと、県内で災害があった場合に、そちらに流れてしまい予算がなくなるわけではなく、計画を立てて前に進めていっていると思っておりますので、非常によかったと思っております。

私の任期もあと2か月となってまいりました。記者の皆さんにおかれましてはたくさん敦賀を報道していただきまして、ありがとうございます。私、市長になったときに、敦賀の記事ちっとも出てないじゃないかとたくさんお叱りを受けたわけなんです。最近しっかりと記事にさせていただいておりますし、発信もできていると思っておりますので、この8年間の感謝を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

今から記者会見です。本日もどうぞよろしくお願い致します。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表は2つあります。

1つは、大韓民国江原道東海市への職員派遣でございます。

1981年に姉妹都市盟約を締結しました大韓民国江原道東海市へ4月12日から10月11日までの6か月間、職員を派遣します。両市の地方行政の国際化や専門化に対応する職

員の養成を目的とした職員の相互派遣は1992年から開始しておりまして、今年で17年目の派遣となります。いろんなことを学んできていただきたいと思いますし、また両国の関係をつないでいただきたいと思います。

2つ目が、La Festa Primavera（ラ フェスタ プリマヴェラ）の開催についてでございます。

中部・近畿地方を巡るクラシックスポーツカーの祭典「La Festa Primavera」が、今年度は、北陸新幹線敦賀開業1年前を記念した特別ルートとして敦賀を訪れます。4月24日（月）の午前11時頃、60台のクラシックカーが、人道の港敦賀ムゼウム前駐車場をチェックポイントとして通過します。その後、休憩地点となるきらめきみなと館にて午後1時30分頃まで滞在予定です。きらめきみなと館横駐車場では、駐車中のクラシックカーの見学や写真撮影ができますので、市民の皆さんにも本物のクラシックカーの魅力をお楽しみいただけたらと思っております。本市としましては、敦賀の景観、食、北陸新幹線開業をLa Festa Primaveraの参加者にPRできることから、プロモーション活動の一環として後援という形で連携させていただいております。

発表項目は以上2つです。よろしく申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問を受けたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 クラシックカーの祭典については、どのような経済効果を考えていらっしゃいますか。

【市長】 一つは、人道の港敦賀ムゼウムの前の駐車場に集まっておりますので、クラシックスポーツカーということで、車の所有者は発信力のある方たちばかりだと思います。そういった方たちにムゼウムを知っていただく、また、敦賀でお昼ご飯を食べることになりますので、そのときに真鯛など食材を知っていただくことを期待しております。また、景観とか町並みというのを御覧いただけたらと思っております。

【記者】 ありがとうございます。

こういうクラシックカーが来るのは初めてのことになりますか。何回目になりますでしょうか。

【市長】 前に来たのはスポーツカーで、クラシックカーは初めてです。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問ございましたら挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移りたいと思います。これも幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 私から3点お願いしようと思っております。一つは、先立って行われましたつるがフェスについて、もう一つが、同じような時期にありましたウエステルダムについて、そして3点目が、原子力政策の今後についての3点を聞こうと思っております。

まず、つるがフェスについてなんですけれども、もしデータがあればですが、2日間の来場者数はどのぐらいあり、特に2日目とか天気もよくてすごくにぎわっていたと思うん

ですけれども、そういったにぎわいぶりを見た市長の所感なども教えてください。

【市長】 人出についてですけれども、2日間で約1万1000人の方にご来場いただいたと聞いております。内訳としましては、18日が約4000人で、そのうちottaでありましたつるが鉄道フェスティバルが約2000人、それから19日が約7000人で、そのうちフェスティバルのほうが約3000人となっています。

イベントをしてということですが、本当に皆さん待ち望んでいたみたいなイメージで集まってきていただいていたよかったですと思っています。

もう一つは、従来でしたら金ヶ崎でイベントをやったというのが多かったんですけれども、金ヶ崎と氣比神宮の辺りというのがイメージ的にあったんですが、昨年は萬象でもやりましたし、今回ottaでやるということで、新幹線に合わせて少しずつ町なかにシフトしてきて、実験的と言ったら失礼ですが、そういう実証ができたんじゃないかなと思っています。

もう一つは、飲食店がちょっと少ないんじゃないかなという印象を持ったということ聞いております。また、お店が昼間から夕方間に閉まったりしたということがあったそうなので、これは慣れてくればだんだん解消していく話ですから、イベントのときにはどうなるかというのを覚えていけば対応ができていくと思っています。お土産屋さんのこともそうですし、この飲食店のこともそうですけれども、私たちが足りなかったということ発信しないとイケないのかなと。といいますのは、そこに来た人たちはそういうふう感じて帰るだけなんですけれども、実際に、例えば市内とか、市外でもいいんですけれども、飲食店の人がそういう情報を知ったことによって出店を決めるとか、そういうことにつながって行って、要は市内の改善につながっていかなくてはいけないと思いますので、どこかで発信する体制を取らなくてはいけないと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

今のお話で言いますと、例えば飲食が足りなかったよとか、店が閉まっていて寂しかったよというようなお話を発信することによって、今はまだちょっと商店街にも目立つような空き店舗とかの解消にもつながるといったような感じでしょうかね。

【市長】 そのとおりです。ですから、商店街に空き店舗がありますので市も観光協会などいろんな人が出店しませんかというアプローチをしますけれども、実際に出店したいという人たちが強い意欲で臨んでくれば、またアプローチの仕方も、また動き方も変わってくると思いますので、そういうところを発信しないとイケないなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

関連なんですけれども、同じくつるがフェスについてなんですけど、特に、今回のパンフレットにも書いてあったみたいに、いろんなプレーヤーとの連携をしてとかというのがあったりとか、これまでもいわゆる地域プレーヤー育成しますと言っていたと思うんですけれども、そういった地域プレーヤーとの連携についての成果をどう受け止められて、成果につながったこれまでの取り組みは、どんなことが今回につながったのか。地域プレーヤーの成果と課題を教えてください。

【市長】 今回、参加団体9団体ということでいろんな団体が頑張ってくださいましたけれども、私ども、行政は黒子だということを常々言っております。その黒子として活動されている方たちを陰ながら支援してきたのです。そういうところがすごく花を咲かせてい

るのかと思います。

もう一つは、ケータリングなど、福井国体のプレ大会から出店してお金もうけができるよみtainなことをずっと発信してきましたので、そういうことに反応した若い人たち、もしくはいろんな方たちが動いてくれているんだと思っています。

どうしても敦賀の市民性として、従来のグループとは別のグループをつくりたいというのが非常に強いんです。ですから、そうじゃなくて、このグループがあるのでそのグループ同士が交流を持って常時助け合えるような形というのがもう少しできたらなど。それが今、市とすると、市の職員が黒子として頑張っているんですけども、自発的に交わって行って大きな形になっていくといいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

今、ケータリングの話が出たのでちょっと関連しますが、ハード的な意味では国8の歩行空間が整備されて、よく利用してきた中で、今回こういった大きなイベントでも使ったというのでごく氣比神宮前の交差点がにぎわっていたなと思うんですけども、その辺はどのように感じられましたか。

【市長】 そうですね。今の歩行空間のところも誰でも使えるように仕掛けができ、ほこみちとして登録できましたので、使いやすくなったと思いますし、実際に使っていただいています。

本町1、2丁目の整備とか神楽の広場の整備というところも、ケータリングが使えるように上下水道と電気は準備してやっているんですね。ですから、その仕掛けがちゃんと使っていただく人につながったなということを非常にうれしく思っています。今まででしたら、「ケータリングって誰がやってるの？」みたいな、「二、三台あるのかな」みたいなところがあったんですけども、今ですと市外からも来ていただいてにぎわいがありますので、もう少し大きなうねりになってくるといいと思っています。

もう一つは、コロナの影響があったので、少し大きなイベントができなくて停滞するかなと思ったんですが、毎週土曜日みたいなちっちゃなイベントが継続して行われますので、敦賀に行ったら何かやっているんじゃないかなみたいな方が土日歩いていたりしますので、そういう仕掛けにもつながっているんだと思います。そういうところを今度新幹線に向けてもっと大きく広げていけたらと思います。

【記者】 ありがとうございます。

では、次の項目で、ウエステルダムの寄港について、いよいよクルーズ船もコロナが落ち着いてきて寄港が再開し、すごくたくさんの方がいて、外国人観光客の方も氣比神宮の前やカグ〜ルでの昆布かきなど、皆さん敦賀を楽しんで帰られた感じでしたが、クルーズ船の寄港についての成果や課題、今後の期待感などを教えてください。

【市長】 ウエステルダムにつきましては、初めて寄港していただいたわけなんですけれども、評判はよかったと聞いていますので、喜んで帰っていただいたのだと思っています。

ただ、3年ぶりの海外クルーズ客船の寄港ということでしたので、前回3回寄港して大分なれてきた感じがあったんですけども、1回リセットされたような、そういうイメージがあります。以前お話ししたかもしれませんが、何回か来るうちに薬物屋さんや郵便局が隣同士にあって、その買ったものが郵送できるというのもありましたけれども、そういうところもなくなってますし、やっぱり誘導する動線についてももう1回考え直さなくて

はいけないということがあります。今度、5月20日に飛鳥が来ますし、10月18日にはダイヤモンド・プリンセスが来ますし、来年の4月6日にウエステルダムがもう1回来ますので、修正しながら改善していければと思っています。評価としては悪くなかったんですけども、改善するところがたくさんあると思っています。

【記者】 では、最後に、原子力政策についてお伺いします。

2点ありまして、もんじゅ敷地内の試験研究炉と敦賀2号のことについてお聞きします。

まず、もんじゅ敷地内の試験研究炉についてです。これも市長と文科省の新井課長とのやり取りなども聞かせていただいていますけれども、実際には1000人雇用を求めているうちの190人ぐらいしか今のところ見えていないという中で、この間のワーキンググループなどの話もあったと思うんですが、まず1,000人雇用についての考え方をお願いします。

【市長】 おっしゃるとおり、試験研究炉については、運転と建設とを合わせて180人から190人という話も出ていますので1000人雇用には届かないと思っています。もんじゅが廃止措置になったときに、今働いている1000人の人たちがどこかに行かなくても済むような仕掛けをしてほしいということをお願いしました。

文科省、機構のほうからは1000人の雇用を守りますということで答えをいただいたんですが、守れるのは10年ちょっとぐらいかなというところがあります。ですから、当然、試験研究炉が同じような人を雇用できるわけありませんので減っていくしかないんです。その試験研究炉で190人の人が雇用されるとして、残りをどう補うかというのが必要だと思っています。それにつきましては先日も申し上げて、試験研究炉を検討していく中でワーキングをつくって地域の経済の活性化ということを考えてほしいと言いましたので、その議論の場を考えましょうということで、3月24日の試験研究炉コンソーシアム委員会のほうで、地域振興を含めた地域関連施策を検討する地域関連施策検討ワーキンググループを設ける旨の説明があったと聞いています。ここについては検討する場ができたと思っています。

もう一つは、自立発展枠の中で敦賀市は補助金をいただいていますので、それが雇用につながるような仕掛けにできないかということをお願いしています。今でしたらそういう枠組みの中で、要は、市外から企業を誘致するときにはその枠組みを使えるんですけども、市内の企業が増設したり拡大しようと思うとそれが使えないということになってきますと、そこに実際に貢献できる部分が少ないんじゃないかということをお願いしています。そういう枠組みができれば、応援していただいた部分がプラスの雇用につながっていくようなカウントができるんじゃないか。ですから、敦賀市としますと、産業団地を造ったりottaができたことで300人ぐらいの雇用が増えているんですけども、そういうところに支援をしていただければ、もんじゅの代わりに、産業の副軸化ということに対する貢献につながっていくのではないかと考えています。そういう仕掛けができるような枠組み、をお願いしているところです。

【記者】 ありがとうございます。

では、敦賀2号なんですけれども、先立って規制委員会委員長がちょっと強い口調で、あさっての5日の規制委員会では、審査の打切りも含めて今後の決断をする時期に来ているというようなことを言っていたと思うんですけども、立地の首長として、日本原電はこうあってほしいというような要望みたいのところはどうですかという点と、全原協会長

として、原電も含めてなんですけれども、やっぱり電力事業者さんのあるべき姿というか、あまり不誠実なことをしているというふうに受け止められるような今の在り方がどうなのかというところ、この2点、立地首長としての立場と、全原協の会長としての立場からそれぞれお願いします。

【市長】 厳しいですね。

一つは、2号機につきましては、業務プロセスを再構築し、ようやく審査が再開された中でまた誤りが確認されたということは誠に遺憾であり、日本原電として深刻に受け止めていただかなければならないと思っていますし、原子力委員会での今後の議論を踏まえ、日本原電にとって真摯に対応していただきたいと思います。

全原協の会長としてということは非常に難しい言葉になりますけれども、そういう意味ではやっぱり真摯に見直して組織づくりからやり直してやっていただきたい、そういうことになろうかと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

私からは以上です。

【記者】 2期8年お務めになられまして、まだ終わってはないですけども、この間大きく変化したなという社会情勢があるとしたら何なのかというところと、もう1点は、そういうことを踏まえまして、今後の市政の最重要課題というのは何だと思われていらっしゃるか、教えてください。

【市長】 そうですね。2期8年の中で大きく変わったことは、一番最近で、ロシアがウクライナ侵攻をしたことが一番大きなことだと思います。その中でエネルギー価格も上がりましたし、物価も高騰しましたし、日本の経済がすごく強いわけじゃないということも分かった気がします。それはコロナのこともそうですが、ワクチンがなかなか手に入らなかったなというところもあるかもしれません。ですから、原子力が止まって、石炭を買い増ししてというところから、日本の国力というのがだんだん弱っているんじゃないかなというのを思います。大きく変わったと私が一番感じるところです。

何をしなくてはいけないかということになりますと、ちょっとテーマが変わるんですけども、やっぱり人口減少が一番大きいテーマだと思います。市長になったときにはこれだけ人口減少に対しての大きな話はありませんでしたけれども、出生数がなかなか伸びないということと、そういう出生適齢の女性自体がいなくなってくるということになっていきますので、そういうところを改善していくための方策が一番大事だと思っていますし、基本計画の中でも人口減少対策を一番に出しましたので、そういうところが大きな課題だと思いますし、これからもやっていかなくてはいけないだろうと思っています。

難しいご質問でしたね。

【記者】 ありがとうございました。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 私も2点お伺いしたい。

1点は、先ほどの質問に関連してですが、日本原電の問題で、また水曜日にも議論があるんでしょうけれども、思うのが2号機、活断層の問題がそもそもあるわけですけども、

事業者の姿勢というところでケチがついてしまうと、敦賀でやっぱり地元期待のある3・4号機、まだ議論に入っているわけでもないですけども、今後の展開に影響しないかというふうにちょっと懸念もするんですが、その辺のところへのお考え、市長はどういうふうに捉えていらっしゃるでしょうか。

【市長】 審査がどんなふうになるかというのは、ちょっと今は分からないんですけども、大体厳しい判断が出ると思います。それ自体が、先程言いましたように、事業者の姿勢なのかというと、事業者の姿勢じゃなくて、そういう抱えた内部の問題だと思いたすので、それ自体が不誠実だとかそういうところにはつながらないんじゃないかとは思っています。ですから、例えばパターンとしますと、その申請を一旦取り下げてしまってもう1回一からつくり直しとなるのか、もしくは、今の申請を根本的に見直しなさいよとなるかもしれません。ですから、そういう判断があった上で、今度、事業者として日本原電がどういうふうなアプローチをするのか。3・4号機のほうに力を入れ出すのか、そこは分かりませんが、そういう判断するポイントであることは間違いないんです。どうなっていくかというのは今後のことですからよく分からないと申し上げたいと思います。

ただ、その姿勢が不誠実だというのはないかなと思います。

【記者】 分かりました。

それじゃ、改善することは可能なので、必ずしも影響するとは考えていないという。

【市長】 そうです。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

それから、市長選に関してですけども、もう今月末に予定はされていますが、これまでのところ、特定の後継の候補者を支援したりすることはないという考え方を示されていたと思うんですが、直前になって候補者、構図ももう固まってきた段階ですけども、現時点でのお考えをお聞かせください。

【市長】 そうですね。あの後、候補者でなくて何人かの方とお話ししたんですけども、8年間で培ったいろんな方との人脈や、つながりがありますので、それを次の方が使っていただきやすいようにしようと思ったら、どちらも応援せずに中立がいいのかなと思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして市長定例記者会見を終了いたします。本日はありがとうございました。

午後 2時 9分 終了